

ふね遺産 第1回 応募案件－8

「ふね遺産」（応募様式）：A4一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

2016年12月9日提出 氏名：増山 豊、石浜紅子、小嶋良一（連絡担当）

所属（個人は住所）：関西設計株式会社（小嶋の連絡先）

メールアドレス：kojima_r@kansai-design.co.jp

その他の連絡先：06-6479-9050

	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	復元菱垣廻船「浪華丸」－江戸時代の海運で活躍した菱垣廻船の唯一忠実な実物大復元船（全長：29.9m、肩幅：7.4m、肩深さ：2.4m）（所有者：大阪市）	大阪の海事博物館「なにわの海の時空館」（以下時空館）のメイン展示物で、江戸期の商都大坂を支えたシンボルとしての菱垣廻船を可能な限り忠実に実物大で復元したものである。
2. 対象物の作成・存在時期	平成6-9年度：調査・設計・材料調達 平成10年4月：ちょうな始め 平成11年7月：完工、海上運転 平成12年7月：「時空館」開館 平成25年3月：同 閉館	復元の基となったのは、現存する菱垣廻船の図として定評のある国立国会図書館蔵「千石積菱垣廻船二拾分一図」で、構造様式から19世紀初頭（文化文政期）の制作と見られる。
3. 現状（写真添付）	 開館最終日の菱垣廻船「浪華丸」	「時空館」は、我が国の海事博物館としては平均的な入館者数であったが、不採算を理由に平成25年3月に閉館された。その後一般公開はされておらず、立ち入りできない状況にある。
4. ふね遺産認定基準の該当項目	【認定対象】(1)、(4) 【認定基準】(5)、(6)、(8)、(9)、(13)	
5. 歴史的・工学技術的意義	(1)江戸期の経済を支えた弁才船（いわゆる千石船）の実物は一隻も現存しない中で、形状、構造、材料から工法に至るまで可能な限り忠実に復元された、江戸期の和船の構造や建造技術を後世に伝える貴重な存在である。 (2)船大工等15名が建造にあたったが、現在では同等の技術を有したマンパワーを集めることは困難で同規模の復元は今後極めて難しい。 (3)海上運転を含め、現在の造船工学の観点から諸研究が行われ、弁才船の諸性能が明らかにされた。	ふね遺産として認定することにより、江戸時代の造船技術や海運の様子を伝える数少ないモニュメントとして、また大阪のユニークな歴史遺産として、日本国内のみならず、海外にも広く情報発信し、認識してもらうことも重要と考えられる。
6. 参考資料・文献（本表に収まらない場合は別途添付する）	(1)小嶋良一：“復元された菱垣廻船「浪華丸」の意義について”、「日本船舶海洋工学会講演会論文集 第22号」、2016 (2)野本謙作他：“浪華丸の帆走実験と性能”，「菱垣廻船を通してみる、なにわの昨日・今日・明日シンポジウム」、2000年7月	